

体育・スポーツ・健康づくりの交流で地域を活性化する

**NITTAIDAI**

# NITTAIDAI 自治体 × フォーラム 2017



**REPORT**

2017年**11月17日**(金)

会場：帝国ホテル 東京 本館中2階 光の間

学校法人日本体育大学 法人事務局 総合企画部

TEL: 03-3704-5203 FAX: 03-3704-3342

# 学校法人日本体育大学とともに

## これからの「体育・スポーツ・健康づくり」を語り合い、学び合う

日本全体の人口減少や少子高齢化、厳しい財政事情とともに、経済のグローバル化の進展や新興国の台頭など、世界経済の環境変化が著しい昨今、「地方再生・創生」は国が掲げる重要課題です。学校法人日本体育大学が地方自治体と手を取り合い、体育・スポーツを通じた地域活性化に取り組みはや3年。その成果は着実に実を結び始めています。

### 式次第

- 16:00 開会
- 16:05 理事長挨拶 学校法人日本体育大学 理事長 松浪 健四郎
- 16:10 学長挨拶 日本体育大学 学長 具志堅 幸司
- 16:15 セミナー
  - 1 基調講演 北海道網走市 市長 水谷 洋一 氏
  - 2 事例発表① 滋賀県守山市 教育委員会 文化・スポーツ課長 田中 滋規 氏
  - 3 事例発表② 神奈川県厚木市 教育委員会 社会教育部 スポーツ推進課長 小林 辰夫 氏  
広島県呉市 文化スポーツ部 副部長(兼)スポーツ振興課長 河下 寿昭 氏
  - 4 グループ討議(意見・情報交換等)
- 17:40 協賛企業説明 資生堂ジャパン株式会社
- 17:55 特別講演 自由民主党 幹事長 二階 俊博 氏
- 18:30 懇親会 【挨拶・乾杯】学校法人日本体育大学 常務理事 今村 裕
- 20:00 【中 縮】日本体育大学荏原高等学校 校長 松田 清孝

### ▼ 特別講演

スポーツも政治も共通点がある、手を抜かず、驕らず

自由民主党 幹事長 二階 俊博 氏



先の衆院選は定数が減りました。事態を放っておけば、負ける可能性が高くなるということです。その中で自民党が284議席を獲得できたのは、党员、党友が一丸となって戦ったからに他なりません。スポーツがまさにそうですが、たとえリードをしても、少しの油断で状況はひっくり返されてしまいます。手を抜いたことは必ず観客に伝わり、立場を失ってしまうわけです。政治の世界も同じ。努力を怠らず、熱心に取り組んできた人だけが、成績を残すことができるのです。そのことを厳粛な事実として認識しなければいけません。

だから私は幹事長としてよく言っています。驕り高ぶってはだめだと。私たちはしっかりと国民の期待に応えてがんばっていききたいと思えます。スポーツや健康づくりで地域を活性化しようというこのフォーラムの目的は大変素晴らしい。みなさんの熱意を日体大にお寄せいただき、この結集によって何かをされようとする場合は、党を挙げて支援するという事をお誓い申し上げます。

### ▼ 理事長挨拶

日本の活性化のために自治体のみなさまの力が鍵となる

学校法人日本体育大学 理事長 松浪 健四郎



前回の東京オリンピックにおいて、日本はインフラ整備などに補助金を出し、先進国を目指していました。借金をしてでも国を豊かにするという“気合”を、先輩方が持っていたことを忘れてはなりません。日体大は、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに70人の選手を輩出し、10個の金メダルを獲得すると公言しております。私たちが“気合”を持って臨んでいるのと同様、自治体のみなさんも、強い意志で地域活性化に取り組んでいただきたい次第です。

自治体の財政的負担は、これから大きくなっていくでしょう。平均寿命世界一の日本の健康寿命は男性70歳、女性74.5歳。つまり、十数年間は援助や介護が必要です。加えて糖尿病患者が1千万人を超えました。しかし、私は地域社会のやり方によって、これらの重症化を防ぐことができると考えています。そのために日体大は、大学研究機関としてさまざまなかたちでの協力が可能です。各自自治体にいる日体大卒業生をうまく活用して、本学との関係をさらに密にしていただければ幸いです。みなさんのお役に立てるよう、我々に思いっきりお手伝いをさせてください。



## ▼ 基調講演

### スポーツツーリズムの誘致を通して 地域を活性化

北海道網走市 市長 水谷 洋一 氏



網走市は、知床、阿寒などの玄関口ではありますが、典型的な通過型観光の町となっております。そこで、スポーツツーリズム、特にスポーツ合宿の誘致で、滞在型観光の町へ転換していこうというのが、まちづくりの大きな柱です。スポーツ合宿では、平成28年度は、参加人員1,700名、延べ1万6,000泊。経済波及効果は5億7,000万円に上っています。合宿の誘致は、昭和62年のインターハイボート競技大会の開催がきっかけで、翌年のソウルオリンピックのボート、女子体操部、陸上長距離、バドミントンの直前合宿地に指定されたことで弾みがつきました。また、網走陸上競技場が日本オリンピック委員会（JOC）から、国内2つ目の陸上競技強化センターに指定されたことも後押ししています。また、障害者スポーツの環境整備も進め、網走射撃場がパラリンピック競技で、ナショナルトレーニングセンターのバイアスロン強化拠点施設に指定をされました。

そして本市には日本体育大学附属高等支援学校が開校されました。2017年は19人の生徒に入学していただきました。そこには150mの全国最長の室内陸上直線走路の練習施設も完備しており、全国の障害者の方と健常者の方が、ともにスポーツが楽しめる拠点になるのではないかと、私たちは期待をしているところであります。スポーツで地域が活性化するとともにこれからの高齢化社会に向けた取り組みをスポーツというフィールドで実現していきたいと考えております。

## ▼ 事例発表①

### 日体大との協定締結で 子どもたちに夢を、お年寄りに健康を

滋賀県守山市 教育委員会  
文化・スポーツ課長 田中 滋規 氏



守山市は琵琶湖に面した位置にあり、京都や大阪への通勤圏として、子育て世代を中心に人口が増えています。本市では向こう10年間、スポーツイベントが目白押しです。2020年東京オリンピック・パラリンピックではトルコとのホストタウン登録。今後、パラリンピックの視覚障害者柔道やゴールボールといった種目を中心に、合宿の誘致などで交流を進めてまいります。また2021年はワールドマスターズゲームズ関西が開催され、本市ではソフトボール、軟式野球、そしてバドミントンの会場になることが決まっています。2024年には、滋賀県で国民体育大会、全国障害者スポーツ大会が開催予定で、守山市は4種目の開催地となる予定です。

このような状況で本市は平成27年10月30日に日本体育大学と協定を締結。市民のスポーツへの関心の高揚、青少年の競技力と育成、市民の健康づくり、そして指導者の育成といったことを主な取り組みとしてさまざまな事業を進めております。すでに大学から優れた学生さんを招いてのランニング教室やバレーボール教室、市民の体力測定会を開催。さらには、小学校の教員向けに、大学から教員を招いた組体操の実技講習会では、技の高度化だけを求めがちだった教員にとって、安全な指導法を学べる大変貴重な機会となりました。

今後も日本体育大学とは連携しながら、子どもたちに夢を、お年寄りに健康を、そしてスポーツで元気な町、守山を目指し、さまざまな取り組みを進めてまいりたいと思っております。

## ▼ 事例発表②

### スポーツによる市民の健康づくり、 体力づくりを推進

神奈川県厚木市 教育委員会  
社会教育部 スポーツ推進課長 小林 辰夫 氏



厚木市は日本体育大学とスポーツ推進に関する協定を平成27年11月4日に締結。高度な技術力や指導力を持つ日体大の教員や学生さん、出身アスリートなどを講師に迎え、28年度は7事業を実施しました。スポーツキャンプでは、小学生を日体大に派遣し、中村礼子さんによる講話やスポーツ交流も行われました。また、野球部やソフトテニス部の学生さんを通し、中学校部活動指導を実施。さらに競技指導講習会では、山本洋祐先生を講師に、武道の効果的な指導ノウハウを学ぶことができました。このほか、健志台キャンパス見学や親子ふれあい体操教室、ソフトテニス部体験練習、剣道研修会を実施するなど、大学との連携事業は本市のスポーツを推進するうえで、とても貴重なものとなっております。

### 自治体間の新たな展開を 迎えることができました

広島県呉市 文化スポーツ部 副部長（兼）  
スポーツ振興課長 河下 寿昭 氏



日体大との連携事業を進める中で、今年初めて厚木市とソフトボールの合同合宿を行うことができました。そのきっかけは、2016年のフォーラムで声をかけていただいたことが始まりです。合同合宿での交流だけでなく、厚木市のトップレベルのチームと交流試合をすることもでき、普段の試合では経験できない刺激を受けました。このほか、日体大合宿派遣では、女子ソフトボール部の専門的な実技の講義を通して、非常に有意義な時間を過ごすことができました。さらに呉市で開催された女子ソフトボールのインカレの試合観戦では、派遣中にお世話になった女子ソフトボール部の選手との交流の輪も広がりました。呉市では、今後もこの連携事業をますます発展させていきたいと思っております。

## ▼ グループ討議

参加された自治体のみなさまで、有意義な意見交換が行われました。



## ▼ 協賛企業

紫外線対策は、  
スポーツや健康づくりにとても重要

資生堂ジャパン株式会社



資生堂では100年にわたって紫外線を研究しており、弊社サンケアブランド「アネッサ」は売り上げナンバー1ブランドとして多くの方にご愛用をいただいております。紫外線は浴び続けるとシワやたるみ、シミの原因になるだけでなく、皮膚がんになる恐れもあります。美容面だけを考え、男性だから、スポーツマンだから関係ないと思われるかもしれませんが、実は健康にも大きく影響しています。皮膚は身体を守る重要な臓器。汗や皮脂を分泌し、呼吸もしています。また、異物の進入や体内水分の蒸散を防ぐ機能もあります。スポーツをして体温が上がると汗をかきますが、それはとても大切なこと。しかし必要以上に蒸発して水分が失われることは身体に悪影響を及ぼします。水分はアスリートのパフォーマンスに重要です。私たちは、サンケアがアスリートのパフォーマンス向上につながるのではないかと考えています。ぜひ男性にも紫外線対策を行っていただきたいですね。



## ▼ 学長挨拶

2020年、さらにその先を見据え  
教育、研究の成果を社会に還元していく

日本体育大学 学長 具志堅 幸司



本学は2018年度から新たにスポーツマネジメント学部と保健医療学研究科を新設。さらに体育科学研究科にはコーチング学専攻も立ち上げます。これで5学部、9学科、3研究科、4専攻からなる大学へと進展します。こうした拡充は、2020年東京オリンピック・パラリンピック、さらにはその先の少子高齢・人口減少社会に向かうわが国の動向を見据えてのものであります。本学が創設以来、追求してきた「スポーツの実践を通じて、心身の健康を育む」という姿勢は今後さらにその重要性を増してきます。そこで私たちは、さらなる教育、研究、社会貢献活動の推進および、協力の向上を目指していかねばなりません。スポーツ学、教育学、さらには保健医療分野で世界をリードする大学を目指して、人間の活力ある身体についてその真理を探究してまいります。さらに教育、研究の成果を広く社会に還元し、活力に満ちた社会創生のための一翼を本学が担っていきたく思っております。

また、東京オリンピック・パラリンピックのムーブメントを通じて、スポーツの力を余すところなく活用し、国際平和の実現に貢献できる人材を育成してまいります。

## ▼ 懇親会



### 参加自治体 ※締結順に掲載

美作市 (岡山県)	中間市 (福岡県)	守山市 (滋賀県)	品川区 (東京都)	大子町 (茨城県)
愛知県	氷見市 (富山県)	厚木市 (神奈川県)	笠間市 (茨城県)	常総市 (茨城県)
紀の川市 (和歌山県)	神崎町 (千葉県)	南魚沼市 (新潟県)	狭山市 (埼玉県)	藤井寺市 (大阪府)
泉佐野市 (大阪府)	上越市 (新潟県)	海士町 (島根県)	中山町 (山形県)	都城市 (宮崎県)
北山村 (和歌山県)	大山崎町 (京都府)	男鹿市 (秋田県)	別府市 (大分県)	
小菅村 (山梨県)	勝山市 (福井県)	可児市 (岐阜県)	宮古市 (岩手県)	
網走市 (北海道)	呉市 (広島県)	東松島市 (宮城県)	桶川市 (埼玉県)	
江南市 (愛知県)	柳井市 (山口県)	小田原市 (神奈川県)	始良市 (鹿児島県)	
駒ヶ根市 (長野県)	阿南市 (徳島県)	香美町 (兵庫県)		
七尾市 (石川県)	中標津町 (北海道)	徳之島町 (鹿児島県)		
志賀町 (石川県)	三種町 (秋田県)	岩国市 (山口県)		
島原市 (長崎県)	みなべ町 (和歌山県)	岩美町 (鳥取県)		

全国48の  
自治体がつながる  
ネットワーク

学校法人日本体育大学を軸としたネットワークを構築し、  
地域を活性化することで、幅広く社会に貢献していきます